

大学の世界展開力強化事業

「日露人的交流の飛躍的拡大に
貢献するTUFSS日露ビジネス
人材育成プログラム」

東京外国語大学

事業責任者

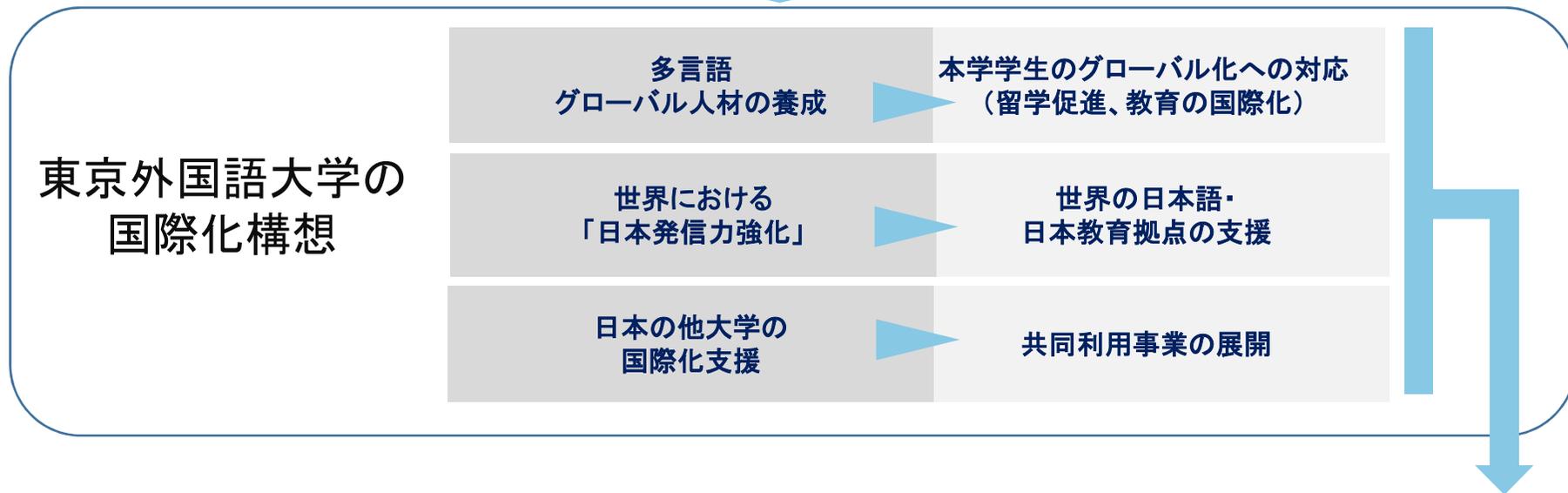
大学院総合国際学研究院 教授 沼野恭子

交流プログラムの背景・目的(大学国際化)

①

国立大学法人東京外国語大学第三期中期目標

「世界の言語・文化・社会の研究教育を通じて、世界諸地域の人々と協働し、地球的課題に取り組むことのできる多言語グローバル人材を養成する」



日露協カプランの実現を支える

ロシアの生活環境大国、産業・経済の革新のための協カプラン
8. 両国間の多層での人的交流の飛躍的拡大
▶大学・青年等の交流、観光客の増大、スポーツ・文化等の幅広い分野での人的交流の抜本的拡大

本事業の目的

多様なビジネス分野に関わる応用力を備えた、卓越した日露ビジネス人材育成

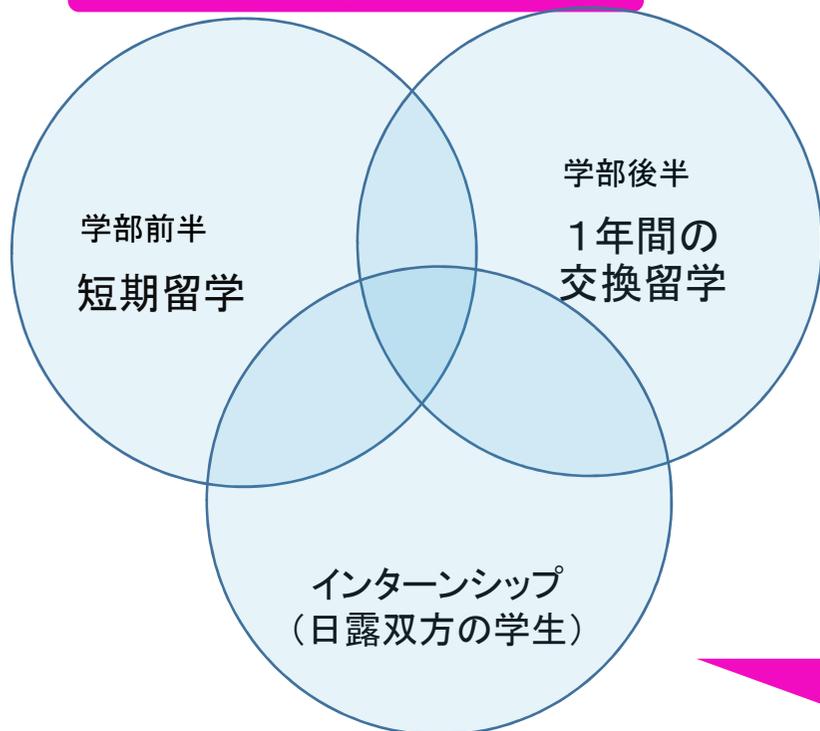
貿易・金融、観光・交通、農水産業、製造業・IT、医療通訳、報道、文化交流等の多様な分野で日露経済活動を活性化させる。

交流プログラムの内容ー1(全体)

②

モスクワ国立大学 平成20(2008)年交流協定締結	モスクワ国立国際関係大学 平成22(2010)年交流協定締結	ロシア国立人文大学 平成12(2000)年交流協定締結
国立研究大学高等経済学院 平成29(2017)年交流協定締結	サンクト・ペテルブルク国立大学 平成21(2009)年交流協定締結	極東連邦大学 平成26(2014)年交流協定締結

3種の交流プログラム



特色1

日露双方で
「国際日本学」「国際ロシア学」を学習

特色2

日露双方でインターンシップを実施

特色3

「TUFSD日露ビジネスネットワーク」による
インターンシップ支援

特色4

充実した
留学中のサポート体制

養成する人材像

- ・ロシア語・英語・日本語を高いレベルで運用できるトライリンガル
- ・日露双方の歴史・社会・文化・経済に関する知識と教養、及び経済・統計・会計などビジネスに不可欠な基礎的知識を備えた人材
- ・多様なステークホルダーの要請を調整し、課題解決に必要な粘り強さ、他者を尊重する想像力・協調力、自主性、創造力を備えた人材

交流プログラムの内容ー2(実績と新たな展開) ③

歴史

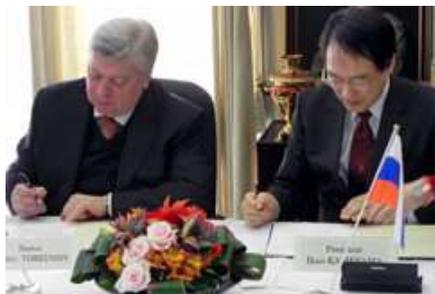
- ・明治6年以來のロシア語教育
- ・徹底したロシア語教育、ロシアの芸術、文化、歴史、政治、社会、経済を万遍なく教育
- ・卒業者に、元・丸紅在モスクワCIS総代表・朝妻幸雄氏(ロシア政府より「友好勲章」を受章)、通訳・吉岡ゆき氏(「プーシキン勲章」受賞)など

現況

- ・言語文化学部30名、国際社会学部に25名のロシア語・ロシア地域専攻の定員
- ・日本人教員5名、ロシア人教員2名からなるロシア語・ロシア地域担当教員

専攻言語教育

本学・ロシア6協定校間の密接な連携



モスクワ国際関係大学との大学間交流協定調印式
平成22(2010)年

高等経済学院、極東連邦大学:ロシアが推進している「5-100」プロジェクトに選ばれている。

交流プログラムの新たな展開

- ・日露双方で「国際日本学」「国際ロシア学」
- ・日露双方でインターンシップを実施
←卒業生の「TUFS日露ビジネスネットワーク」による支援
日露ビジネスで活躍する本学OB/OGが結成。インターンシップ先の開拓や留学生支援を通じ、本事業を支援。
- ・派遣・受入学生数の増加

ロシア人人材育成実績

日本に留学したロシアからの留学生の進路:⇒ 三菱重工、(特定非営利活動法人)海外医療情報センターなど

交流実績と成果



“Two Cities — Two Universities”プログラム



モスクワ国際関係大学とのJoint Education Program

- ・ロシア人文大学 平成12(2000)年～
- ・モスクワ大学 平成20(2008)年～
- ・サンクト・ペテルブルグ国立大学 平成21(2009)年～
- ・モスクワ国際関係大学 平成22(2010)年～
- ・極東連邦大学 平成26(2014)年～
- ・新規に高等経済学院と連携協定。同校への本学オフィス(Global Japan Office)設置について、合意済み。

交流実績		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	合計
モスクワ大学 モスクワ国際関係大学 ロシア人文大学 サンクト・ペテルブルク大学 極東連邦大学	派遣	0	0	2	5	40	28	29	22	27	23	176
	受入	1	1	3	5	6	8	5	21	8	8	66

T RUSSIA F S

日露ビジネスサマースクール

ロシア語で学べる日本の実業と文化、
タンデムで磨く日本語(カルチャープログラム付き)

★プログラム概要

プログラム名	TUFS 日露ビジネスサマースクール
受入人数	原則として各協定校から4名ずつ 計26名
プログラム期間	2018年7月17日(火)～7月27日(金)
時間・単位数	60時間 / 2単位

★プログラムスケジュール

7月16日(祝・月)	到着、チェックイン	7月23日(月)	「日露タンデム学習」1日目/午後:学外カルチャープログラム
7月17日(火)	「ロシア語による国際日本学」1日目	7月24日(火)	「日露タンデム学習」2日目/午後:企業訪問
7月18日(水)	「ロシア語による国際日本学」2日目	7月25日(水)	「日露タンデム学習」3日目/午後:学外カルチャープログラム
7月19日(木)	「ロシア語による国際日本学」3日目	7月26日(木)	「日露タンデム学習」4日目
7月20日(金)	「ロシア語による国際日本学」4日目	7月27日(金)	「日露タンデム学習」5日目
7月21日(土)	「ロシア語による国際日本学」5日目	7月28日(土)	チェックアウト、帰国

実現に向けた取り組み(環境整備)

⑤

本交流プログラムへのサポート

先方大学との準備

- ・ロシアの6協定校の窓口教員と密接な連絡体制
- ・高等経済学院に、本学海外拠点(Global Japan Office)設置済み。在ロシアコーディネーターを配置済み。

関連組織との提携

- ・日露ビジネスで活躍する本学出身者の組織「TUFS日露ビジネスネットワーク」との協力体制構築済み
- ・外語会(本学同窓会)との協力体制構築済み

「TUFS日露ビジネスネットワーク」概要

「東京外語会」
海外ネットワーク

「ロシア支部」
会員40~50名

「TUFS日露ビジネスネットワーク」



派遣に関する全学的環境

留学前

- ・留学支援共同利用センターによる留学支援
- ・危機対策教育の徹底

留学中のサポート体制

- ・「ただいま海外留学中」サイトによる連絡体制
- ・外語会支部やGlobal Japan Officeからの支援

留学後

- ・帰国後のレポート提出を義務付け
- ・留学体験者への就職支援

受入に関する全学的環境

在籍管理

- ・正規生[348人]:教務課が担当
- ・非正規生(短期・交換)[272人]:留学生課が担当

就学・生活のサポート体制

- ・全交換学生に、指導教員・日本語教育担当教員・学生チューターを配置
- ・徹底した日本語教育の機会提供
- ・英語でのカウンセリングなど

就職支援

- ・外国人正規生へのインターンシップ
- ・留学生の就職支援体制



「ただいま海外留学中」 サイトによる安全確認の取組



プログラムの発展性

交流プログラムの
継続性

本学の将来構想に資する取組みとして継続して実施

- ・国際戦略の取組の一貫として、短期留学・長期留学・海外でのインターンシップを展開

交流プログラムの
発展

基本モデルとして広くロシア語圏の大学に提示

- ・単位互換、教育の質保証も含めた、日露間大学交流の基本モデルを提示することを目標
- ・ロシアの大学が日本の大学との学生交流を開始する際の支援へと繋げる

交流プログラムの
社会への開放

他大学の学生及び社会人へ開放

- ・世界教養プログラム「就業体験科目」の受講対象は、本学学生のみならず、他大学の学生や企業の研修者も想定
- ・財政支援期間終了後も、他大学との単位互換制度、社会人向けの一般聴講生制度等を活用

